

平成 28 年度の事務事業評価について

1 平成 28 年度行政評価のスケジュール

日程（予定）	内 容	備 考
4 月 15 日 ～5 月 6 日	事務事業評価【一次評価】	
5 月 20 日 ～6 月 3 日	事務事業評価【二次評価】	
5 月 30 日 ～6 月 10 日	施策・基本事業評価 【一次評価】	
7 月 20 日 ～8 月 30 日	施策・基本事業評価 【二次評価】	全庁政策会議
11 月上旬	次年度の経営方針決定	

2 事務事業評価単位の見直し

平成 27 年度の外部評価に対する市の方針でも記載しましたが、平成 27 年度に事務事業についての全庁的な調査を実施しました。

(1) 簡易評価の拡大

- ・ 庶務事務や負担金支出などの「事業に類しない費用的事務等」については、成果指標等を用いない簡易評価を導入済
- ・ 今回の調査により、政策的判断を要しない事業であって、市の負担が生じない事業や内部管理事業についても、簡易評価を拡大

⇒59 事業を簡易評価に移行

より内容のある評価ができるよう引き続き環境を整備

(2) 事業の統合

- ・ 対象や意図を今よりも広義に考え、関連性が強い事業を統合することで、事業に弾力性を持たせることを目的に実施

⇒組織の枠を超えた事業の統合は少なかったものの、約 50 事業をスリム化
名目だけの統合に陥らないよう注意が必要

(3) 既存事業の見直し

- ・ 平成 28 年 1 月から 2 月にかけて、事務改善の観点から、予算縮減に向けた既存事業の見直し及び業務の効率化等に関する調査を実施

- ・ 今年度の事務事業評価を実施する前段として、全庁的に、事業の目的、手段、効果の再確認による既存事業の廃止、統合、見直しを検証

⇒本来、事務事業を評価していく中で、考えなくてはいけない内容のはず
事務事業評価が機能するための環境や意識付けが必要

3 人工数の適正な把握に向けて

平成 28 年度から日報管理による業務量の把握を始めました。

日報の管理は、その日に従事した時間を、あらかじめ区分された課ごとの事務事業と全課共通の内部共通事務に入力する簡単な作業です。

平成 28 年度に 1 年間をかけて積み上げた勤務時間数が人工数の実績となり、これを平成 28 年度の事務事業のコストとして反映させます。

職員個人がどのような業務・活動を実施したかを記録し、勤務時間で「数値化」することによって、適正な人工数の把握にとどまらず、自身の業務を見つめ直すきっかけ作りをしていくことを考えています。

4 新しい事務事業評価の考え方

これまでの事務事業評価では、目的妥当性、有効性、効率性、公平性という観点から評価を行ってきましたが、導入から年数が経ったことで、評価や内容の形骸化が見られるようになってきています。

平成 29 年度からは、より中身のある評価とすることを期待し、その事務事業を実施することの意義、上位の施策や基本事業への貢献度、事業の課題認識、改善の視点に特に着目した内容を検討しています。

その取組に合わせ様式を見直すことで、実効性のある評価表にすることはもちろんのこと予算や決算の説明資料に展開できるような仕組みを作っていきます。